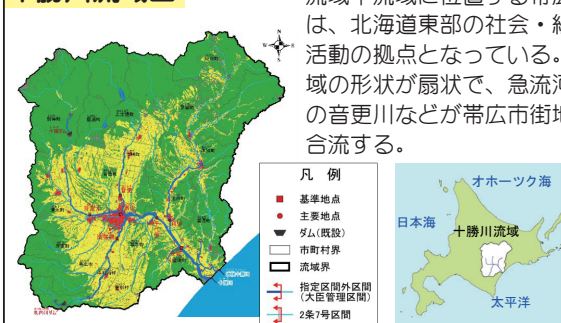


### 十勝川流域図



○平成 28 年 8 月に 4 個の台風の上陸・接近などに伴う降雨によって、基準点茂岩、帯広地点では観測史上最大の流量を記録し、更に帯広地点では洪水防御のための河川整備の既定目標(基本高水) 6,800m<sup>3</sup>/s と同規模となった。

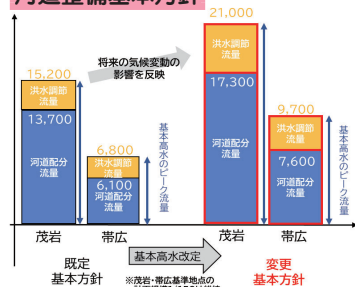
○令和元年 10 月には、気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会において「気候変動を踏まえた治水計画のあり方」がとりまとめられた。この中では、気候変動に伴う将来の降雨変化倍率は北海道地方が最大であるとされており、気候変動への対応は喫緊の課題とされた。

○このような背景を踏まえ、令和 4 年 9 月には河川整備基本方針を変更。

○これに続いて、河川整備基本方針に従って実施する具体的な整備の内容を定める河川整備計画についても令和 5 年 3 月に変更したところ。

### 河道と洪水調節施設等の配分流量

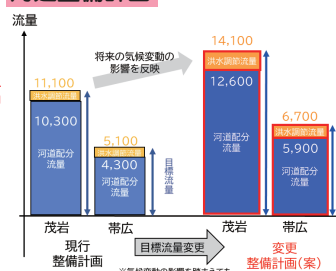
#### 河道整備基本方針



＜基本高水ピーク流量の考え方＞  
 ・気候変動による降雨量の増加等に対応するため、1/150 確率雨量に、降雨量変化倍率(×1.15)を乗じ、新たな基本高水のピーク流量を基準点茂岩で 21,000m<sup>3</sup>/s、帯広で 9,700m<sup>3</sup>/s とした。

洪水調節施設等については、流域の土地利用や雨水の貯留・保水遊水機能の今後の具体的な取り組み状況を踏まえ、具体的な施設配置等を今後検討していく。

#### 河道整備計画



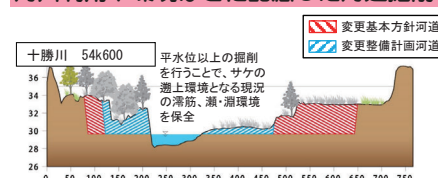
#### ＜目標流量の考え方＞

・平成 28 年洪水と同規模程度の洪水において大規模な被害を回避する。

・気候変動後(2℃上昇時)の状況においても、既定河川整備計画での目標と同程度の治水安全度を概ね確保する。

### 河道整備計画における整備メニュー

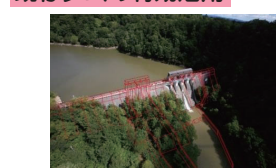
#### 河川利用や環境などに配慮した河道掘削



・目標流量に対応するメニューとして、効果の早期発現、経済性、実現性、地域社会への影響、環境への影響などの観点から総合的に評価し、河道掘削とあわせて十勝ダム、札内川ダム、佐幌ダムに加え、支川音更川の既存ダムの有効活用による洪水調節を位置づけ。



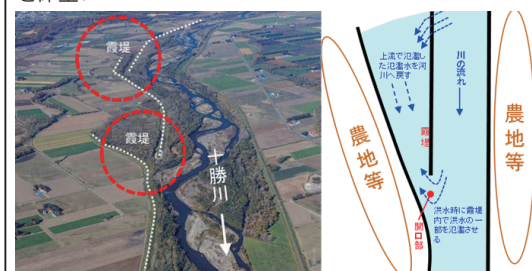
#### 既存ダムの有効活用



### 流域治水の推進

#### ＜霞堤の保全＞

・地形特性も踏まえ、十勝川上流部や札内川上流部では、霞堤方式を多く採用。氾濫した場合でも周辺の農地や市街地への被害拡大等を防ぐ治水対策として霞堤を保全。



#### ＜立地誘導と連携した氾濫抑制制度＞

・パンケ新得川等では、平成 28 洪水で氾濫が発生。  
 ・このため新得町市街部への氾濫抑制の放水路整備等とあわせて二線堤等の整備を検討中。

